

第3回庄原市長期総合計画審議会専門部会(教育民生部会) 会議録(摘録)

1. 開催日時 平成27年9月2日(水) 14:00～
2. 開催場所 庄原市役所本庁舎5階 第1委員会室
3. 出席委員 山内 文雄 委員 ・ 毛利 昭生 委員 ・ 住田 鉄也 委員
清光 康子 委員 ・ 東 泰治 委員 ・ 明賀 誠 委員
4. 欠席委員 岡崎 輝子 委員 ・ 吉川 由基子 委員
5. 出席職員 企画課長 兼森 博夫
企画課企画調整係長 加藤 武徳
企画課企画調整係 本郷 明宏
企画課企画調整係 森久 敬太
6. 傍聴者 庄原市議会議員 五島 誠
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

第3回庄原市長期総合計画審議会専門部会（教育民生部会） 次第

平成27年9月2日（水）14：00～
庄原市役所 本庁5階 第1委員会室

1. 開会

2. 議事

- ・基本構想について
- ・基本計画について

3. その他

- ・次回専門部会開催日（予定）について
日時：平成27年10月16日（金） 14：00～
場所：庄原市役所本庁舎5階 第2委員会室

4. 閉会

会議経過

(1) 開会

(前回専門部会後の修正箇所等について事務局説明)

(2) 議事

・基本事項について

事務局：(資料により事務局説明)

委員：第1期計画の検証と課題についてはよくまとめられているように思う。

各施策に対する満足度の中で、「どちらともいえない」といった意見が最も多い結果となっているが、本当に市民の声が出ているのか疑問に感じている。

45頁の「②高齢者の自立支援」の中で、「「自助」「互助」「共助」「公助」のバランスが取れた「地域包括ケアシステム」」の必要性について書かれているが、内容を見ると高齢者だけが対象になっている。今後、庄原市が安心・安全を感じることができるシステムを考えていく上では、若者を含めた形での地域包括ケアシステムが必要なのではないか？

また、「⑦医療の充実」について、庄原赤十字病院は事業病院の中でも高度医療を提供していく病院であり、西城市民病院は福祉病院の機能を持っていると思う。地域包括ケアシステム構築の中で、そういった位置づけを示し、地域に合わせたシステムを構築していく必要があると感じている。

51頁について、社会教育の必要性をどのように位置づけ、どのように展開していくのかを示す必要があると思う。例えば、各自治振興センターにおいて社会教育主事の配置を考えるべきだと思う。

54頁の「農業自立振興プロジェクト」において、TPPの関連で米価の下落が大きな問題になっている。全国の調査結果を見ると農林業の衰退が商業地域の衰退を招いている状況にあるとわかった。現に庄原市内の各地域の商店はみんな閉まっている。地域の基幹産業である農業振興を推進していくためには、所得の向上や担い手に対する重点的な取組みが必要だと思う。

事務局：これからの計画策定の中で、頂いた意見を整理して対応していきたい。

委員：52頁の「地域文化の振興と継承」の中で、「庄原市民会館、東城文化ホールを中心として、広く市民に文化・芸術に触れる機会を提供し、意識の高揚に努めてきた」とあるが、かなり文化的な関心が高まってきていることは事実だと思う。ロビーコンサートなどにおいて、レベルが高いステージも展開されており、そういった「芽」を活かして、継承・発展させていく必要があるといったところに触れてもらいたい。

委員：資料3の基本事項は、最終的に本誌に載るのか？

事務局：現在は整理の都合上、基本事項・基本構想・基本計画と3つに分けているが、最終的にはこれらをひとつにまとめ冊子とする予定である。

委員：6頁の「本市の姿」の項目には福祉や介護の内容は含まれないのか？医療と介護の課題について、どこに内容が述べられるのか、どこまでの内容を掲載するのか整理が必要ではないか？高齢者の自立支援に関してどこまで述べるかという問題もあるが、いきなりケアシステムの構築を求められるだけではわかりにくい。現在の記述では課題になっていないのではないかな？

高齢者福祉の課題は、今がピークで、自助・互助の部分でケアシステムが求められているが、ケアシステムの理念は施設から在宅へという流れであり、その説明がもう少し必要なのではないかな？45頁の文章で「地域包括ケアシステムを構築し、充実させていく」とあるが、地域包括ケアシステムの説明がないのに突然、言葉が出てきてもわからないと思う。47頁の⑤社会保障の充実の中で、「介護サービス」について述べているが、高齢者の項目では介護サービスについて記述しないのかな？

事務局：介護保険は、介護保険制度といった社会保障制度の中での内容であるため、その項目に記述している。

委員：地域包括ケアシステムが、医療介護の在宅化となり、自助、共助の中で役割分担をすると全部包括化しており、社会保障で国民健康保険と介護保険を分けてしまうとわかりにくいので、検討が必要ではないかな？全般的に課題の書きぶりが課題となっていないように思う。

事務局：もう一度各課に確認をとりたいと思う。総合計画なので、課題等を個別計画のように掘り下げていくのは難しい。様々なご意見をいただいたので、わかりやすく整理していく。

委員：課題の本質の部分を抑える必要がある。45 頁の「②高齢者の自立支援」の中で「高齢者世帯の増加が見込まれる中で～」とあるが、高齢者世帯が増えるからケアシステムに取り組むのではなく、医療介護の仕組みを変更しなければならないことが重要なのだと思う。そのあたりを、もう少し詳しく丁寧に整理してほしい。

各項目において、目標指標の達成状況があるが、目標数値の設定は、これで良いのかしっかりと考えてもらいたい。高齢者福祉では、こういった目標が数値目標として正しいのか、例えば、庄原市の介護認定率を 20%以下に抑えるためには、元気な高齢者を増やすための数値が基本になってくる。指標に何を採用するのかしっかりと検討してもらいたい。

事務局：行政として正確な数値が把握できるものである必要がある。本計画の目標数値は今後提示していくのでご意見をお願いしたい。

委員：高齢者が現時点で約 1 万 5,000 人と言いながら、10 年後は 1 万 4,005 人となっている。また、10 年後の総人口は約 3 万 1,000 人となり、6,000 人の減だが、高齢者は 1,000 人程度しか減らないため、ますます高齢者を支えていく状況になる。1 万 5,000 人のうち 9,600 人が 75 歳以上で 64%を占めており、介護認定者も 3,900 人で、いずれ 4,000 人になる。介護予防や健康づくり活動を推進している組織・団体と連携してケアシステムを構築していくべきだと思う。

団塊の世代が 75 歳以上になる 2025 年が問題だと言われている。社会保障制度の中で、介護費が 10 兆円で 10 年したら 20 兆円になる。どのようなサービスが必要かを議論していかなければならない。目標指標の設定は、高齢者の推移を踏まえたものにしていくべきである。

委員：ケアシステムが必要となる背景として、今の施設サービスがパンク状態であることが挙げられる。庄原市も介護サービスに関連する施設は造らないことで決定している。今後は在宅サービスを最重視した方向となる。医療においても同様に、国全体で病床数を 10 数%カットすると言われており、県の資料でも、備北地域において、今後 10 年間で病床数を 32%カットすると示している。医療も介護も施設から在宅の流れになってきており、そのために自助・互助を重視したケアシステムの充実が必要であると結びつけなければ、課題がはっきりしない。医療でも介護でも他の分野でも、必要な課題を集約し触れてほしい。

委員：全体的に、もう少し練った内容にすべきではないか。高齢者のみの世帯が増加するのではなく、高齢者のみの世帯の割合が増加するといった書き方にしないといけない。64歳未満の割合が減ってくるわけで、2025年問題では後期高齢者の割合が増える。さきほど発言されたように、庄原赤十字病院は高度医療の提供、西城市民病院は福祉病院といった各病院の併用を大半の市民は理解していない。猫も杓子も庄原赤十字病院に押しかけ、言い方は悪いが高度医療の邪魔をしている。ここままでは医療費は増加し続ける一方であるため、市民の意識改革が必要であるように思う。介護保険制度に関しても、介護保険料を支払っているのに、当然に受けるサービスを受ける権利はあるが、必要以上に権利意識が強くなっているのは問題だと思う。新聞では15年後には介護保険料が1万円を超える市町村が全国で70市町村程度出てくるとあった。地域包括ケアシステムだけを強調した記述になっているので、文章を練り直したほうが良い。

委員：高齢者単身世帯が10年間で166世帯増えるとある。女性だけが78世帯、男性だけが88世帯。高齢者世帯が増えてくるのは間違いなく、2025年でピークを迎える。そのため、健康管理や高齢者福祉、若者や高齢者の健康づくり、そういったものを全て含めた事業が推進できるようなシステムを構築しておかなければ、2025年を迎えた段階では大変なことになる。
様々な関係機関が連携した地域包括ケアシステムの構築が必要だと思う。

委員：50頁、51頁の「①学校教育」について、地域の子どもが地域外へ出て行く要因を取り除かなければならない。東城中学校の子どもは東城高校へ10人も入学していない。半分だとしても、他から来なければ存続は難しい。現在、格致と西城と東城は連携校になっており、廃校になる一歩前の状態である。①学校教育の創造、②生涯学習の充実とあるが、まちづくりは人づくりであり、教育は非常に大切な分野である。一長一短に効果の得るものではなく、5年10年と長い月日をかけてしっかり取り組まなければ人材育成はできない。学校教育の中心はあくまでも学力である。生涯学習では、社会教育と家庭教育の支援等記述してあるが、もう少し充実させてほしいと思う。学校教育と社会教育、家庭教育がお互いに補完し合いながら人間を育成するという視点であれば、生涯学習の記述を増やすか表現を変えて、学校教育だけではなく社会教育も非常に大切であると表現したほうが良いと思う。学校教育検討委員会では、この長期総合計画を基本にして指針がつくられるため、もっと重要視してほしい。

委員：子どもの数が減っていくのは仕方がないが、外から来るような方策が求められるのではないかと。そうすると教員の資質を向上させることが課題になってくるので一言でも付け加えてほしい。

事務局：担当課に確認する。

委員：課題の中身と表題が合っていないと感じる。49頁の「医療の充実」にしても、産科のことしか記述がないが、庄原の医療課題は産科だけなのか。地域医療の課題もあり、もう少し整理してもらいたい

委員：基本計画でそういった問題は挙げていけばいいのではないかと。

委員：基本事項の内容は最終的に冊子になるのか？あくまでも本日のみの参考資料なのか？

事務局：基本構想とは別だが、最終的には総合計画書として一冊になる。

委員：項目的には基本構想とは別ということか。

事務局：第1期計画で掲げた基本施策別の項目をまとめているが、ご指摘があったように、成果や課題の記述のレベルが各課でばらつきがある。もう一度整理をし、レベルを合わせた記述をしていきたい。

委員：生涯学習の充実は、指摘があったようにもう少し内容を付加して頂きたい。生涯学習の中には、家庭教育も学校教育も含まれるが、庄原市に必要なものを整理してもらいたい。

事務局：文章整理をしていく。

・基本構想について

事務局：(資料により事務局説明)

(将来像について)

委員：将来像については、10年後のイメージができておらず、具体的な数値もない状況では考えられない。先に言葉から入ることには抵抗がある。

委員：どの案でもいいと思うが、テレビなどを見ても、東北地方のことがあり「絆」の一辺倒であるため、案1か案3が良いように思う。

委員：案3がいいと思う。彩り豊かと言えば老いも若きも含まれるのではないか。里山共生都市は表現として堅い。好みの問題にはなるが、外から来て標識を見て、「えっ」と思わせるのは温泉と公園のまちだと思った。

委員：案1が良い。社会教育等を含む生涯学習の推進という面からも、学んだことが地域において活かされる機会を提供していくことが必要であると思う。学習内容が地域に活かされれば、活かされた人の笑顔は輝くのではないかと思う。笑顔が輝く施策を展開すれば、必ず絆も生まれ、彩りもできるのではないかと思う。そうした基本計画であり施策であってほしいと願っている。

委員：以前提出させてもらった意見書では、案1の「輝く」、案2の「絆」、案3の「豊か」、全ての言葉を含めた回答をさせてもらっている。どこへいっても絆があるとと言われると、案1か案3なのかと思う。

委員：将来像にはロマンがないといけないと思う。ロマンを持ち、市民が心豊かに生活できるようなイメージが持てる将来像になればいいと思うが、個人的には「絆」にこだわりたい。今後、人口減少や高齢化が進む中、広い地域の中で支え合っていける人間の素晴らしさを強調し、支えあいの絆を今から育まなければならない。そうしなければ、まちにエネルギーも元気も出てこない。本当に地域が輝くためには、支える絆がなければならないし、支えあっていけるような人間関係を育まなければならない。

委員：絆という表現は安っぽく感じる。

事務局：ご意見を聞いて、何もつけないものも含め検討していきたい。

(本編内容について)

委員：2の「2財政規模の推計」について、5年推計を出しているが、この計画は10年計画であるので、平成37年の財政推計を示すべきではないか？財政推計がわからなければ計画はできないのではないかと思う。現在示されている推計値が本当にこれでいいのか？もっと厳しくなるのではないかと思うので、よく検討してほしいと思う。

9頁の将来推計人口について、人口ビジョンの中で検討されている将来推計が3案あるが、その各案の推計で考えた場合、各種サービスの低下にどの程度影響を与えるのかを知りたい。子どもの減少は非常に大きな課題になっており、学校の存続を考えても非常に厳しい。教育委員会だけでは解決できない問題であり、もっと例示しながら、何を指すのかをしっかりと議論して決めたい。

22頁の中で、簡潔にポイントを絞るべきだと思う。政策の趣旨の最終行が基本構想のポイントと思うが、「柔軟かつ適切な支援に努めます」という言葉の意味がよくわからない。「地域包括ケアシステムの構築に努めます」という言葉で良いのではないか？子育て支援に関する内容でも、総合的な子育て支援の「総合的」とはどういった意味なのか？ここには地域医療や在宅医療のイメージが盛り込まれていない。これから重要になる部分をもっと記述する必要がある。

委員：地域包括ケアシステムの構築といった地域の実態に則した表現にしてほしい。23頁の中段に「地域づくりは人づくり」というフレーズを挙げられているが、下段の(2)基本施策の「②生涯学習の振興」に、社会教育という言葉を入れてほしい。生涯学習の中に社会教育は入っているが、庄原市全域で地域の生涯学習に対する考え方があまり育っていないと実感しており、あえて社会教育の振興としてほしい。

委員：市民協働の内容をもっと盛り込むことで、地域包括ケアの話につなげていけるのではないか。

事務局：すべての市民を対象とした健康増進と介護予防の取り組みを強化し、また福祉・医療・介護の効果的な連携体制が地域包括ケアシステムであると理解し記述している。

委員：「柔軟かつ適切」の表現が不要であると思う。システムをもう少しやわらかく大きく捉えて理念を謳うと良い。

委員：23頁の「(1)政策の趣旨」の中で、「地域の教育力の醸成をはじめ、」という文章の前段に、「家庭・」を付け加えてほしい。

事務局：家庭教育を学校で教えるのは如何なものか思う。教育委員会が施策として講じることが良いとは思えない。

委員：親の教育力を高めることが10年前くらいから新たな行政課題として出てきている。共働きで核家族になり、家庭の教育力が足りない。

委員：家庭の教育力の向上が教育委員会としてどこまでできるのかは課題ではあるが、家庭自身の問題であると思う。しかし、行政として発信はしていかなければならないのではないかと思う。

委員：家庭教育に対して、どれだけ教育委員会が指導するのか。学校教育は学校の範疇であり、家庭教育は教育委員会の範疇になると思うが、家庭教育に教育委員会がどこまで進言できるのか。家庭教育は親自身が工夫、研修して、親としての責務を果たすものであると考えている。円満な社会人、家庭人になっていないのが現在の家庭構成であり、そこが欠けているため、児童や生徒にも欠けた部分が出てくるのではないかと思う。学校教育、社会教育、家庭教育がお互いに補完し合っていかなければならない。家庭教育は他人が入り込みにくく、非常に難しいが面があるが、放任していると欠けたままで円満な人間が育たないように思う。

委員：家庭教育がすべての教育の原点であり、柱にすべきである。

委員：学校教育は学校教育法、社会教育は社会教育法に規定がある。社会教育法には「社会の中の最小単位は家庭である。家庭の中で人は育つ。育つ中身を社会教育の教育機会を通して、具体的な中身をそれぞれが学習してそれぞれが育むものである」と書いてある。家庭教育は社会教育の領域である。社会教育事業の中でそうした学習機会をつくっていくべきだと思う。表現が難しいが、生涯学習課と相談してほしい。

委員：子どもに箸の使い方から教えないといけない部分もある。実際現場に携わって見ないとわからないことがたくさんある。

事務局：教育委員会と教育振興計画の策定の打ち合わせをするよう予定しているので、整合を図りながら検討したいと思う。個人的には、家庭教育は親から子へ伝えるものという意識しかなく、教えられるものではないと考えている。

・基本計画について

事務局：(資料により事務局説明)

委員：30頁の(5)「③家庭の教育力の向上」とあるので、先ほどの内容に含まれていないとおかしいのではないか？

事務局：教育委員会が考えている最新の内容で記述しているが、各委員の意見を踏まえて検討していきたいと考えている。

委員：家庭教育の関係は、45頁の「④家庭教育の支援」に記述してある。社会教育という括りの中で整理をせざるを得ないと思う。今は生涯学習という形で整理されている。庄原市全域では生涯学習体系に移行するにはあまりにも学習機会、学習を活かす場、意識が育っていない。あえて社会教育という言葉を使うべきだと思う。

委員：地域教育といった文言はないが、社会教育を言い換えるとすればそれに等しいと思う。地域の教育力という文言は出てくるだろうが、社会教育と同じ意味合いだと思う。

委員：32頁に「④地域包括ケアシステムの充実」という表現があるが、これから具体的な内容が出てくるということか。

事務局：地域包括ケアシステムは今後、行動計画、実行計画等において整理をしていくことになる。

委員：地域の実態に応じた考え方がないといけないと思う。地域に福祉病院があれば良いが、高野、口和、総領に西城市民病院のような公立病院をつくれといっても難しい。地域の保健センターや開業医、庄原赤十字病院にお願いしたいのは、事業病院として高度医療が提供できる先生や設備を整え

てほしいということ。それがないと地域包括ケアシステムは完成しない。

1 (1) 「③研修機会の提供」とあるが、社会教育主事のことを表記する必要があるのではないかと思う。専門的な人材が必要であり、社会教育の推進という意味でもそう思う。

(2) 「③公共サービスにおける協働の具現化」の中で「市民ができること、行政と市民が力を合わせて行うこと」とあるが、現在のように財政が厳しい状況下では、具体的な施策として事業の組み立てが可能なのは行政職員だと思う。行政職員が地域の実態を正確に把握する方法を考え、実態を知った上で具体的な施策を考えてほしい。

21 頁 (7) 「⑤賑わい空間の創出」で、よく旅行者には「庄原市の土産が何かわからない、土日に食事する場所がない」と言われる。そのための具体的な取り組みとして、何らかの方法を取り入れてほしい。

40 頁の「(1) 医療体制を充実します」の中で、事業病院と福祉病院の整備と拡充が必要だと感じる。具体的な取り組みとは資金が必要な取り組みであり、医師の確保、設備の充実等のことである。行政が財政面において支援することは当然であり、安心・安全をつくる意味でも整備と充実が必要だと思う。

45 頁の「④家庭教育の支援」に関して、社会教育の一環なので推進が必要だと思う。

事務局：項目については各課で再度練り直しをするので、次回の審議会までには最終案を配布する。

(3) その他

- ・次回開催日（予定）について

(4) 閉会